千刈狸の呟き

～ベラルーシの彼は今どこに？～

白 露 狸

ウクライナの北部と国境を接するベラルーシ共和国の外科医Gennady Turが秋田大学第一外科に留学したのは1992年10月から１年間だった。当時、私は医局長をしており教授から彼の世話係を命じられた。30歳の実直賢明な好漢で、彼との交流は思い出深いものだった。その彼の消息があるときからぴたりと途絶え、以来30年近く経過している。ロシアのウクライナ侵攻で混乱している地域でもあり、彼の情報を知るすべはもはやないだろうとあきらめてはいるのだが・・・。

彼がどんな男だったのか、述べてみたい。秋田にきて２か月を過ぎた頃、スキーができるというので正月休みに田沢湖スキー場へ連れ出した。ところが、リフトから降りたとたん彼は転倒し膝関節を捻挫してしまった。後でわかったが、ベラルーシには標高300m程度の丘陵しかなく、彼の言うスキーとはクロスカントリーだった。歩くのが辛そうだった彼の膝に責任を感じた私は、一時期、車で通勤時の送迎をした。これをきっかけに彼が辛抱強く礼節をわきまえた男であることを知り、面倒を見なければならない留学生としてではなく、年齢が一回り若いひとりの友人として接するようになった。

勤勉な彼は留学中に一遍の英語論文を書き上げた。医局の机のパソコンに向かっているちょっと猫背の後ろ姿が懐かしい。学位を目指す医局員の動物実験も毎日のように手伝ってくれた。日本の医師免許がなければ臨床活動は制限されるが、外科医が手術をしたいのは万国共通である。当時、耳鼻科では有茎空腸再建喉頭がん手術がよく行われており、その際、空腸切除は第一外科に依頼されたので、私が執刀し教授の許可を得て彼に助手をしてもらった。このときの彼は水を得た魚のようだった。自炊でどんなものを食べているか話題になったことがあった。幼いころ彼の祖母がよく作ってくれたベラルーシ料理に似ているのが日本の餃子で、スーパーで何パックも買いだめしているとのこと。ただ、夕食をこれだけで済ますことが多いと聞いて、それはどうかと思い何度か拙宅に食事に来てもらった。そして、食後深夜まで囲碁に興じたりもした。彼との思い出は枚挙にいとまがない。

彼の留学は、秋田－ベラルーシ友好協会（当時）の支援によるものだった。同協会は、ソ連崩壊後に独立したベラルーシのウクライナ国境に近い人々が、チェルノブイリ原発事故で大きな被害を受け経済的困難にも陥っていることを知った秋田在住の実業家が立ち上げたもので、歴代の会長は秋田大学学長が務めていた。

彼が秋田を去った１年後の1994年、今度は私がベラルーシを訪れる機会に恵まれた。医療物資援助も当協会の活動の一つで、ベラルーシへ援助物資を運ぶ協会員に随行し、彼に直接会って秋田大学が授与する学位の件を説明してくるよう教授に託されたのである。

ドイツ経由で首都ミンスクに到着した夜、さっそく彼の自宅に招かれ小児科医をしている妻のベラルーシ料理を味わった。集合住宅の８階で、窓からミンスク市街を見渡すとどの方向を見ても同じ高さ、同じ色調の集合住宅が整然と立ち並んでいた。ミンスク腫瘍センター勤務の彼は、それからの一週間、休暇を取って私の通訳兼世話係になってくれた。数か所の病院見学や彼の母校での手術症例カンファランス参加、医学生への講演などもしたが、息抜きに本場のサウナ、バレエ白鳥の湖の鑑賞などに連れ出してくれた。

そんな中でミンスク郊外の森でのキノコ狩りは特に印象深いものだった。白樺と松の混合林が果てしなく続き、厚い絨毯のような苔に覆われ、歩いても足音が聞こえない静寂に包まれた森だった。この時、彼はこう言った。「この森に入った外国人は最初がナポレオン（フランス人）、２番目がクリミア戦争のトルコ人、３番目がヒットラー（ドイツ人）、そして４番目が今ここにいる日本人だ。日本人以外はすべて侵略者だった」と。私と同行者の盛麻酔科准教授（当時）は驚き、顔を見合わせた。その翌日、第２次世界大戦でナチスに焼き討ちされ全滅した町の跡地に巨大な慰霊碑が立つ公園を訪ねた。数万の墓標がはるか遠く丘の麓まで続いていた。歴史的残虐事件とされるカチンの森事件（５千名近くのポーランド人将校らの射殺死体が発見されナチスの仕業とされていたが、ソ連崩壊後にソ連軍によるものと判明）もこの地域に近い。この国の歴史は侵略、迫害なしで語れないことをこの時学んだ。

再会した数年後に、彼はなぜ忽然と消えたのだろう？何度メールを打っても応答がなく、手紙を出しても返事がこない。友好協会の事務局や歴代の留学生に聞いてみたが誰も首を横に振るだけだった。

彼が消息を絶ったころ、ベラルーシには独裁者ルカシェンコ大統領が誕生し、以来、民主化を叫ぶ国民を容赦なく弾圧してきた。今ではプーチン大統領の操り人形ともいわれている。私が密かに恐れるのは彼が政治的に抹殺されたのではないかということ。彼とは政治の話をしたことがない。それだけに気になっている。

【発行所】一般社団法人 由利本荘医師会（毎月１回発行）　【医師会HP】http://honyui.jp/
由利本荘市水林456-4 TEL0184㉒4085